

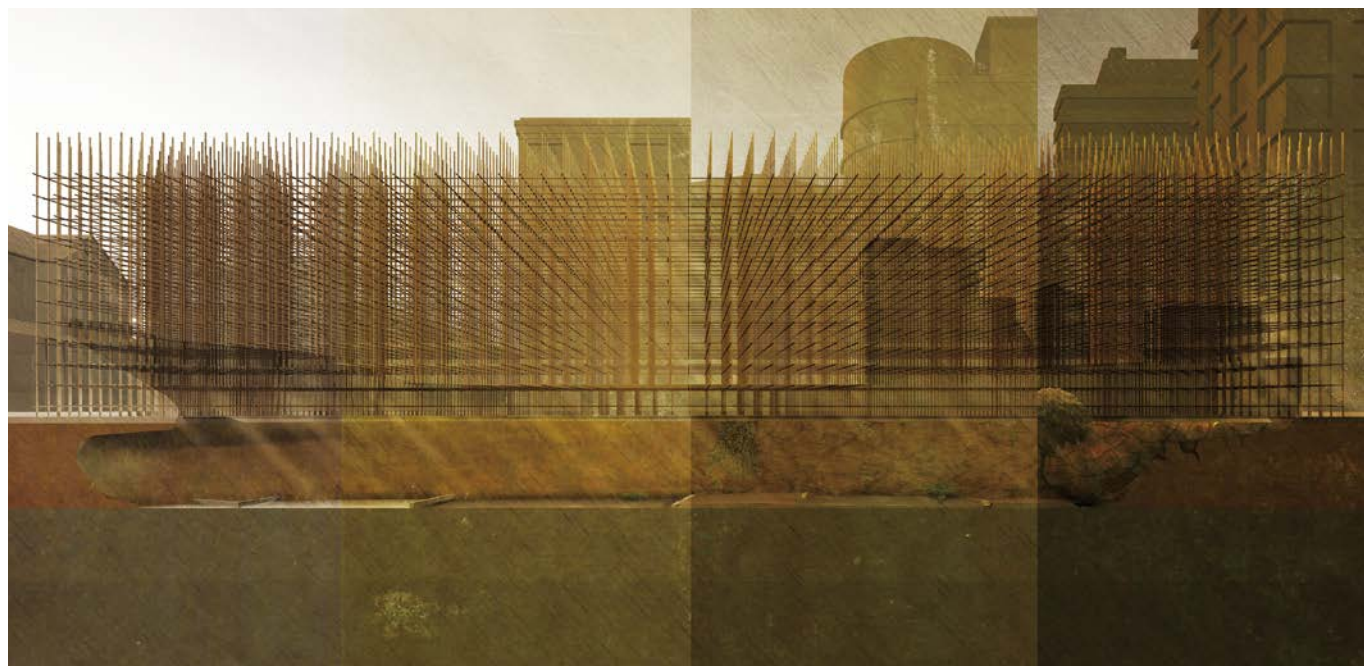
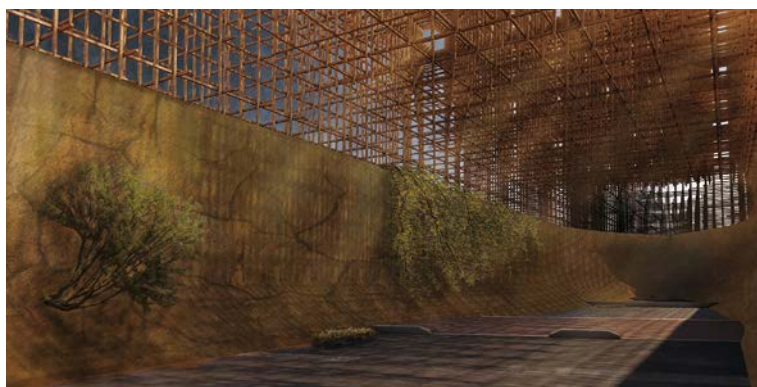
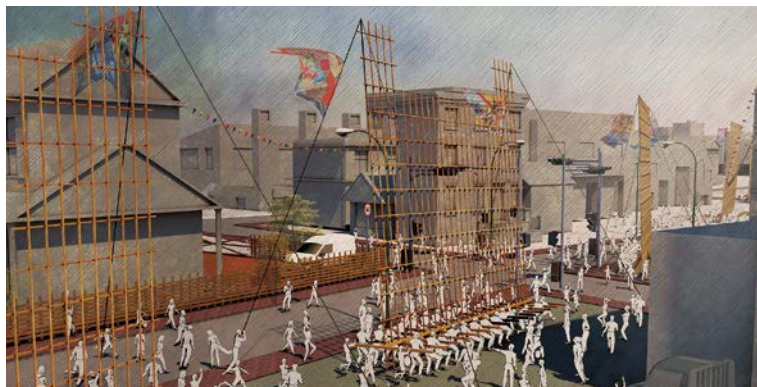
名城大学建築同窓會會報

●発行/2014年4月1日 ●編集/名城大学建築同窓会会報委員会

No.142

INDEX

会長・学科長あいさつ	1・2
新春情報交換会	3
支部だより	3
城友会	4
同窓会ニュース	4
建築学科教職員	5
建築同窓会賞	5
キャンパスニュース	5
就職情報	6
平成24年度事業報告	7
平成24年度決算報告	7
平成24年度会計報告	7
平成25年度事業計画	8
平成25年度予算	8
会則	9
表紙・裏表紙解説	10
平成25・26年度役員	10



記憶の祝祭 山本 将太



建築同窓会会長

小木曽 森司

(昭和48年卒)

建築同窓会の会員の皆様方には、混沌とした社会情勢の中にもかかわらず、各地域、各界各層において貢献され、活躍ぶりを耳にするにつけても、心強く、又、励みとしているところであります。

昨年は、建築同窓会が発足して50年の節目を、又、我が校の建築学科も65周年を迎えた年でした。

1月には18回目となる新春の情報交換会を「65/50」と銘打ち記念式典を開催。3月には学科の先生方と在学生、修了生や新旧卒業生の皆様の参加を得て名城大学天白キャンパスでの「大交流会」を開催。6月の総会には、建築学科の皆さんが利用する竣工間もない建物(研究実験棟Ⅱ)の「施設見学会」もあわせて開催しました。

「建築学科設立65周年・建築同窓会設立50周年記念事業」とした一連の事業を、記念誌の発刊と併せて行う事が出来ました。大学当局及び諸先輩を始めとする会員各位の御協力の賜物と篤くお礼申し上げます。

名古屋ドームキャンパスの設置、新学部の設立、理工学部内の学科の新設等の大学の動きの中、出生率の低下による18才人口の急減期、就職戦線の厳しさなど順風な環境とは言い難い時でもあります。

この50年間の同窓会の歩みの上にある、建築同窓会の今後の活動は、1万2千名を数える建築学科同窓生と学生会員との絆を大切に、「地域社会に貢献できる会」を発展継承させていくためにも、活力のある各役員や評議員の参画を仰ぎ活動する方針です。毎年提起される事項として、会員の方々にお送りしている同窓会会報の発刊・ホームページの活用と合わせた情報の提供の方法。地域を主体としたネットワークの支部活動のあり方。会の運営に重要な会費徴収の方策。「会員相互の情報交換・交流の場」とする交換会の開催方法などがあげられますが、問題解決に方向性を見出し、努力する必要性を再認識するところであります。

末尾に成りましたが、会員、諸兄の熱き声援と物心両面にわたるご支援をお願いすると共に同窓会関係各位の皆様方のご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

平成26年3月吉日



建築学科長

高井 宏之

名城大学理工学部建築学科の卒業生・在校生をはじめ、関係者の皆様におかれましては、日々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より当学科の諸活動に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は「建築学科65周年・建築同窓会50周年」でした。この記念事業として、3月には、3つのトークセッションからなる「大交流会」が開催され、15名の卒業生・在校生が登壇。現在の仕事の状況や思い、現役学生に対する熱いメッセージが語られました。またこれにタイミングを合わせ、「名城大学建築同窓会 50年のあゆみ」も出版されました。着任7年目の私にとって、これらの企画から得た情報は実に刺激的であり、あらためて当学科の芸術家肌の伝統を感じ取ることができました。また6月には、当学が昨年4月に引っ越した研究実験棟2（新築）の見学会が開催され、関西支部からも年次総会を兼ねて沢山の参加者があり、交流を深めることができました。

引き続き、上記の一大イベント以外の、昨年の3つの出来事を紹介します。第一は、上記にも触れた、長年慣れ親しんできた4号館から研究実験棟Ⅱへの当学科の引っ越しです。全教員4階におりますので、お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。なおこの建物で特筆すべきは、教員と学生の部屋が別室となったことです。教員個人としては落ち着いた環境となりましたが、これまで同室で自然に取ることができていた学生とのコミュニケーションが難しくなり、積極的に用事を作り部屋を訪れて声をかけるようにしています。

第二は、1年生から専門科目が始まる新カリキュラムがスタートしたことです。新たな科目も設け、やや手探りながら、新鮮さと緊張感に満ちた生活を送っています。

第三は、長年守ってきた一級建築士の合格者数一位（東海地区）を、僅差ではありますが名古屋工業大学に譲ったことです。合格者数一位の実績は、大学の看板の一つとしていつも登場していたものであり、巻き返しを願っています。この資格取得を目指している卒業生・在校生の健闘を期待するとともに、卒業生の周辺におられる当学科OBに、ぜひとも頑張りのお声がけとご支援をお願い致したく、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、同窓会をはじめとする当学科の関係者の方々の、ますますのご発展とご健康を祈念し、学科長の挨拶とさせていただきます。

第19回新春情報交換会 [経済交流委員会]

本年も「第19回新春情報交換会」が、平成26年1月17日(金)に盛大に開催されました。

参加者は124名でした。大学の先生や他学部の方もご参加いただき、また今年も現役の学生の参加者もありました。

初めに、例年恒例となっている講演会が開催されました。今年は名城大学建築学科で準教授をされている、谷田真先生をお迎えして御講演を頂きました。

その後の懇親会では、多くのご来賓のご祝辞を頂きました。「学科斉唱」や「名城節」も含め、とても楽しい一時を過ごす事が出来ました。

今年も例年通り、中区のホテル「アイリス愛知」にて開催されましたが、参加者の数及び予算など考慮すると、今後の新年会のあり方も再度検討していく必要があると思われます。会の存続のため、皆様のご意見などありましたら是非お寄せください。



▲高井建築学科長挨拶



▲小木曽建築同窓会会長挨拶



▲吉久理工学部長挨拶



▲堀川交友会会長挨拶



▲新井武男氏記念品贈呈



▲谷田先生の講演会

支部だより

『岐阜県支部』だより

岐阜県支部 支部長 水谷 武 (II-6)

年一回の定時総会が唯一の交流の場となっています。参加者が固定化し高齢化の傾向にあります。今年も6月に岐阜会館にて開催する予定です。皆さんお誘い合わせてご参加ください。とくに若い方の参加を歓迎します。

連絡先は次の通りです。

支部長 水谷 武 TEL.0584-81-2343(株式会社 大日組)

幹 事 小林輝雄 TEL.058-253-3111(株式会社ユニオン)

会 計 下川康夫 TEL.058-251-1504(株式会社 名康設計)

城友会

森 一将（平成21年卒）

名古屋市役所に入庁し、新規職員として住宅都市局建築指導部監察課に配属されてから3年経ちます。法律に基づき違反建築の指導を行う部署であり、入庁当時は大変なところに配属されたなと思いました。しかし、民間ではできない行政らしい仕事だからこそ、行政の担う役割や抱える問題を常に考えて業務に臨むことができたと思っています。

将来、卒業生の皆さまと仕事で関わった際に、何らかの形でお力になれるよう頑張ります。

市役所へお立ち寄りの際は、お気軽にお声をおかけください。



▲城友会 総会(2013.11.13)

同窓会ニュース

昨年は、名城大学建築学科65周年・建築同窓会設立50周年を記念して、複数のイベントを催すことができました。中でも「大交流会」では、社会で活躍する同窓生たちによるトークセッションを軸に、世代を越えた交流を仕掛けることができました。

はじめて試みる企画であり、至らない点も多々ある中で、我々の呼び掛けに快く参加して下さったゲストの方々、企画に関心を寄せてくれた多くの同窓生に、心より感謝申し上げますと同時に、今後も我々は、多くの同窓生が緩やかにつながっていく状況を創出するため、同様な企画を断続的に催して参りますので、その際にはご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



MEIJO ARCHITECTURE 65/50 大交流会
実行委員会 代表 谷田 真(95年卒)

建築学科教職員

教 授	建 築 計 画	鈴 木 博 志	准 教 授	建 築 構 造	大 塚 貴 弘
〃	建 築 計 画	高 井 宏 之	〃	環 境 計 画	岡 田 恭 明 ○
〃	建 築 構 造	立 川 剛	〃	建 築 計 画	谷 田 真 ○
〃	建 築 材 料	寺 西 浩 司	〃	建 築 材 料	平 岩 隆
〃	歴 史 意 匠	溝 口 明 則	〃	歴 史 意 匠	三 浦 彩 子 ○
〃	建 築 構 造	武 藤 厚	〃	建 築 構 造	宿 里 勝 信 ○
〃	建 築 構 造	村 田 賢 ○	〃	建 築 計 画	柳 沢 究
〃	環 境 計 画	吉 久 光 一	〃	環 境 計 画	吉 永 美 香
准 教 授	建 築 計 画	生 田 京 子			

○印は名城大学卒業生

建築同窓会賞

建築同窓会は、学部卒業生及び大学院修了生の優秀者に建築同窓会賞を贈り表彰しています。受賞者は、各研究室が表彰候補者を選出し、学科より同窓会に推薦して決定しました。下記の受賞者には、学位記授与式にて建築同窓会会長より表彰状を授与します。建築同窓会賞が、同窓会と学科の相互的な協力関係を深め、在学生の意欲と同窓意識の高揚に寄与することを期待するとともに、受賞者が各研究室の代表同窓会員として、新たな研鑽の場で活躍されることを期待します。

平成24年度受賞者

水 野 絵梨香 (溝口研)	六 谷 敏 希 (谷田研)	石見康洋+小寺智哉 (吉永研)	嶋 倉 耕 作 (宿里研)
石 黒 野々花 (三浦研)	早矢仕 亮 介 (吉久研)	石 原 慎 也 (武藤研)	鈴 木 智 也 (柳沢研)
高 井 健 司 (高井研)	川 北 篤 (岡田研)	加 藤 広 太 (寺西研)	都 筑 大 勝 (平岩研)

キャンパスニュース

2013年度、建築学科のキャンパスに関わる大イベントは、4号館から研究実験棟2への引越しでした。2013年3月に完成した研究実験棟2は、鉄骨鉄筋コンクリート造の地上4階・地下1階、延床面積19,980㎡、中庭のあるコの字形平面に、タワー75や南北共通講義棟の流れをくむレンガ風タイルを基調とする外観、その中に理工学部の実験室・実験室などがおさまっており、建築学科はその4階全体を占めます。エントランスにはRC打放しの巨大な3連アーチが鎮座し(学生・教職員・卒業生の3者を象徴するという点はよいのですが、アーチという建築的要素を実に表層的に用いるこのデザインには、個人的には首をかしげます)、屋内外にまたがりつつ二層の吹抜をつなぐ大階段は、なかなか気持ちの良い場所となっています。「開放的な雰囲気の中で…多くの学生が集う空間を設ける」という計画意図のとおり、各所に設けられたロビーや休憩スペースにはいつも学生達の姿がありますが、試験勉強や模型製作までそこで行ってしまうのは、やや活用しすぎかもしれません。

3月の卒業式シーズンにバタバタと荷造りと引越しを行ない、4月から本格的に研究実験棟2の使用が始まりました。空間的に大きな変化は教員と学生の部屋が分離したことです。窓も大きく室内は明るくなり、1人あたりの面積も拡大して学生達の活動の場が拡がりました。また、扉に大きなガラスが入り、廊下から各研究室の雰囲気が伺えるようになったのもよい変化です。ただし夏と冬の(特に空調の切れる夜間及び休日の)温熱環境改善は、今後の大きな課題です。最上階のため夏は熱がこもり、急遽網戸を設置しましたが、いまだ不十分。冬場の冷え込みもきつく、卒業研究時の泊まり込みの際には、学生達も相当苦勞していたようです。しかしながら4号館に比べて制作スペースが広がったためか、卒業設計の模型は例年に増して力の入った巨大なものが増えたようでした。



▲研究実験棟2 外観



▲4階制作室での卒業設計展示

就職情報

就職・進路関係について

武藤 厚（就職委員）

近年の就職状況

近年の就職状況はここ数年の傾向とほぼ同じで、総合建設業が30%前後を占め、最多となっています。職種は施工管理・設備施工管理が主であり、スーパーゼネコン～準大手・中堅、東海地区の大手～中堅企業まで、それぞれの志向に合わせて幅広く就職しています。最新で予想される求人も好調で、この職種を希望する学生には比較的就職しやすい状況となっています。次いで住宅産業が20%前後で続いています。設計事務所と官公庁は7%前後、建材メーカーなどが5%前後となっています。官公庁への就職希望者はここ数年増加傾向を示していますが、各公共団体による状況の違いは民間企業と同様に様々です。近年、リフォーム関係、不動産関連、設備関連の設計、また、一般企業の中の営繕部門からの求人が増加傾向にあります。総じて名城大学建築学科の就職状況は東海地方の私立大学では群を抜いていると言えます。

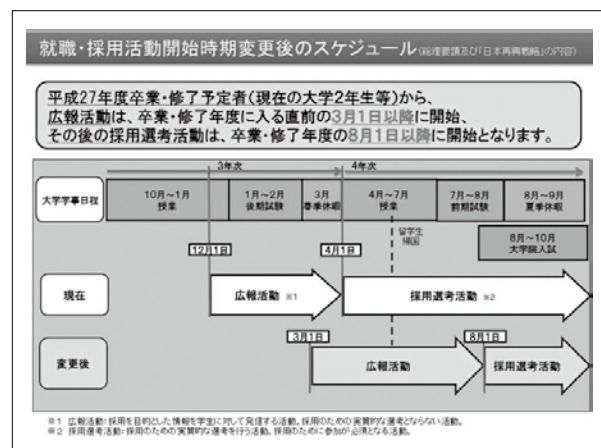
なお、学部卒での就職に加え、大学院へ進学し修了後の就職を希望する学生が増えています。平成23年度の大学院進学率は15%となっています。建築学科の全国的な進学率は50%に達しており、今後、進学率は増加していくことが予想されます。

就職活動と就職支援

具体的な学生の就職活動としては、本年度の場合、3年次の春からのガイダンスや情報収集に始まり、具体的な就職活動は12月から開始し、4月中旬頃までに複数回の就職試験、4月から連休明けの時期に合否決定というスケジュールが一般的です。なお報道されているように、新3年生からは公式な就職活動のスケジュールが、「12月からの広報活動が3月に、4月からの採用選考活動が8月に変更」となりましたので、大学の対応もそれに伴って後ろに移動となります（右図参照）。

現在の学生にとっては、就職活動を始めるに際して、まず一般的な情報収集や適性の確認は重要です。テクニカルには情報網としての「リクナビ」や「マイナビ」等への登録が必須に近い状況ですが、実際の採用活動では、本学建築学科の最近の状況を知ることや大学への求人情報が、実は一番重要になっています。この点では、OBの方々の方々の多大なご協力を得ております。

学内の就職支援の一つとして、キャリアセンターでは、3年生を対象に「就職ガイダンス」「就職模擬試験」「求人情報」など多くの就職支援を行っています。建築学科でも昨年度同様に企業と連携した就職セミナーを開催しています。就職活動開始後、キャリアセンターと学科就職委員が個人的な就職相談に応じており、幅広く学生の就職活動を支援しています。なお、3年生の夏季休暇を利用したインターンシップへの参加も着実に増え、生の情報収集、適性判断等の良い機会になっています。



▲就職・採用活動開始時期変更後のスケジュール（内閣府HPより）

平成24年度事業報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

①総務委員会

- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施しました。
- 2) 会議の開催
通常総会(6/17)1回
役員会(4/9、6/7、7/3、8/7、9/11、10/14、11/8、12/4、12/25、1/11、1/31、2/28)12回
評議員会(5/8)1回
正副委員長会議(4/25、11/11)2回 開催しました。
- 3) 慶弔に関する事務を取り行いました。
- 4) 建築同窓会、周年事業への協力支援をしました。
- 5) 卒業30周年ホームカミングディ(11/24)(昭和58年3月卒業)の支援をしました。
- 6) 第18回新春情報交換会(H25.1.18)への支援をしました。
- 7) MEIJO ARCHITECTURE 65/50(3/23)への支援をしました。
- 8) 評議員のいない学年に対して、学内と協力し、働きかけをしました。

②財政委員会

- 平成24年 9月24日 年会費納入案内発送 平成23年度卒業生 111通
平成24年 9月28日 年会費納入案内発送 平成21年度卒業生 100通
平成24年10月 1日 年会費納入案内発送 平成22年度卒業生 124通
平成24年10月 9日 年会費納入案内発送 会員 528通
平成24年10月18日 第1回財政委員会(5名)
平成25年 1月25日 年会費納入案内発送 会員 449通

③事業・経済交流委員会

- [事業]
1) 城球会ゴルフ大会へ補助金支給 10,000円
[経済交流]
平成25年1月18日 18回新春情報交換会
参加者 178名(内学生29名)

④会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(141号-A4版)を8,500部発行。(前号と同数)
2) 学生会員に配布。会員6670人(前年6843人)に郵送。
3) 建築学科65周年・建築同窓会50周年記念誌「50年のあゆみ」を1,500部発行。
4) 名簿の追加、訂正。
5) ホームページの修正。

⑤建築学科65周年、建築同窓会50周年記念事業特別委員会

- ・記念式典(情報交換会と共に)開催
・大交流会の開催
・記念誌の発行
・見学会予定

平成24年度決算報告

	項目	予算額	決算額	備考
収入の部	学生会員会費	1,000,000	240,000	学生会員会費:24名¥10,000
	事業収入	1,400,000	1,072,000	新春交換会参加104名+招待74名)
	理工同窓会援助金	293,600	265,200	学生会員援助金を含む
	建築同窓会年会費	1,200,000	1,005,000	会員205名・新規25名¥3,000・永年11名¥30,000
	寄付金	200,000		周年記念事業特別会計に充当
	利子及び雑収入	700	867	利子(元帳+各委員会)・他
	周年事業積立金	1,000,000	1,000,000	
	活動準備金より充当		1,432,633	
	合計	5,094,300	5,015,700	増減額¥-78,600

	項目	予算額	予算内訳	決算額
支出の部	総務委員会	540,000	会議費	160,000
			慶弔費	100,000
			学科支援費	150,000
			運営費	130,000
				567,573
	財政委員会	120,000	入会案内郵送費	90,000
			振込票印刷費	15,000
			運営費	15,000
				120,643
	事業・経済交流委員会	1,420,000	見学運営費	20,000
			経済交流運営費	1,400,000
	会報・名簿・IT委員会	1,620,000	印刷費	950,000
			会報郵送費	590,000
			名簿調査作成費	50,000
			ホームページ作成費	20,000
			運営費	10,000
	組織委員会	250,000		1,421,809
			支部援助・設立準備費	120,000
			旅費	20,000
			運営費	110,000
	各委員会合計	3,950,000		230,875
	周年事業積立金	1,000,000	特別会計に充当	4,015,700
	予備費	144,300		1,000,000
	合計	5,094,300		0
				5,015,700

財産の部	平成24年度期首財産(平成24年4月1日)前年度繰越金		
	周年事業積立金	1,000,000	
	活動準備金	3,643,753	
			4,643,753
	平成24年度期末財産(平成25年3月31日)次年度繰越金		
	前年度繰越金	4,643,753	
	特別会計充当金	-1,000,000	
	収入充当金	-1,432,633	
			2,211,120
	建築学科65周年・建築同窓会50周年記念事業特別会計 (事業継続中、未収入金および未支出金を含み、決算報告は次年度とする。)		
	平成24年度末残金	4,075,416	
			4,075,416

平成24年度会計報告承諾

名城大学建築同窓会24年度(2013年)会計報告書を帳簿、領収書等により監査したところ適正であることを認めます。

2013年(平成25年5月10日)

監事 佐藤 正義

監事 亀之内親雄

平成25年度事業計画

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

①総務委員会

事業計画(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施する。

2) 会議の開催

・通常総会 平成25年6月16日(日) 午前9:00受付 午前9:30～10:20

名城大学天白キャンパス共通講義棟南館S504教室

・役員会 7～8回 第1回 4月9日(月)サテライト、

第2回 5月21日(火)サテライト

第3回 6月4日(火)サテライト

・評議員会(5/21) 1回 ・正副会長会議 1～2回

・総務委員会 1～2回

3) 慶弔に関する事務

4) 建築同窓会、周年事業への協力支援

5) 卒業30周年ホームカミングディ(昭和59年3月卒業)の支援

6) 第19回新春情報交換会(H26.1.17)への支援

7) 評議員の充実

評議員のいない学年に対して、学内と協力し、働きかける。

②財政委員会

1) 前年に引き続きガイダンスにて学生会員へ会費の納入をお願いする。

2) 同窓会として会費の納入と共に、在校生にプライバシーポリシーによる学生の名簿を充実する取り組みをする。

3) 会員への年会費納入案内を発送する。

4) 学年会員・保護者様へ会費納入案内を発送する。

5) 卒業生(24年度)へ会費納入案内を発送する。

6) 会費納入会員へ礼状ハガキを発送する。

7) 財政委員会を年2回程度、開催する。

③事業・経済交流委員会

[事業]

・見学会等の開催 新校舎の見学会(6/16)

・城球会ゴルフ大会へ補助金支給 10,000円

[経済交流]

・平成26年1月17日 19回新春情報交換会

④会報・名簿・IT委員会

1) 建築同窓会会報(142号-A4版)を8,500部発行。

2) 学生会員に配布。会員に郵送。

3) 保護者に配布。

4) 名簿の追加、訂正。

5) ホームページの修正。

⑤建築学科65周年、建築同窓会50周年記念事業特別委員会

・見学会の実施

・決算報告

平成25年度予算

	項目	予算額	備考
収入の部	学生会員会費	1,000,000	学生会員会費:¥10,000×100名
	事業収入	1,400,000	新春交換会
	理工同窓会援助金及び学生会員援助金	344,400	
	建築同窓会年会費	1,200,000	¥3,000×300名、永年会費¥30,000×10名
	寄付金	200,000	
	利子及び雑収入	700	
	合計	4,145,100	

	項目	予算額	予算内訳
支出の部	総務委員会	540,000	会議費 慶弔費 学科支援費 運営費 160,000 100,000 150,000 130,000
	財政委員会	140,000	郵送費 印刷費 運営費 110,000 15,000 15,000
	事業・ 経済交流委員会	1,420,000	見学等事業運営費 経済交流運営費 20,000 1,400,000
	会報・名簿・ IT委員会	1,620,000	会報印刷費 会報郵送費 名簿調査作成費 ホームページ作成費 運営費 950,000 590,000 50,000 20,000 10,000
	組織委員会	230,000	支部援助・設立準備金 旅費 運営費 140,000 20,000 70,000
	予 備 費	195,100	195,100
	合 計	4,145,100	4,145,100

財産の部	平成25年度期首財産(平成25年4月1日)前年度繰越金		
	周年事業積立金	500,000	
	活動準備金	1,711,120	2,211,120
	建築学科65周年・建築同窓会50周年記念事業特別会計 (事業継続中につき、未収入金および未支出金を含む。)		
	平成24年度末残金	4,075,416	4,075,416

平成26年 建築同窓会総会のご案内

平成26年度の建築同窓会の総会を下記により開催いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●とき 平成26年6月15日(日)

●ところ 名城大学 天白キャンパス内

9:30～建築同窓会総会 共通講義棟南館S504

10:30～理工同窓会総会 共通講義棟南館S201

11:30～講演会 共通講義棟南館S201

13:00～懇親会 タワー75 15階レセプションホール

詳細につきましては、下記の理工同窓会ホームページにおいてもごらんになれます。

理工ホームページmeijyo-rikou-dousoukai.jp/

第20回 情報交換会開催のご案内

第20回情報交換会を開催いたします。
多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●とき 平成26年11月29日(土)

●ところ 名城大学 天白キャンパス
タワー75 15階レセプションホール

第19回新春情報交換会も平成26年1月17日に盛大に開催することができました。会員各位のご協力に感謝いたします。
第20回は上記の日程で会場を変更しての開催を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

名城大学建築同窓会 経済交流委員会

名城大学建築同窓会会則

第1章 総 則

- (名称)
第1条 本会は名城大学建築同窓会と称する。
- (事務所)
第2条 本会の事務所は名城大学理工学部建築学科内に置く。
- (支部)
第3条 1. 本会は役員会の承認を得て原則として地域単位とする支部を設置することができる。
2. 支部細則は必要に応じ役員会の議決を経て設けることができる。
- (目的)
第4条 本会は会員相互の親睦を図ると共に地域社会への貢献、文化の振興を図り名城大学及び名城大学建築学科の隆盛発展に寄与することを目的とする。
- (事業)
第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 会員名簿の発行
2. 会報の発行
3. 懇親会、見学会、講演会及び研究会等の開催。
4. 学生会員に対する援助
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第2章 会 員

- (組織)
第6条 本会は会員、特別会員、名誉会員を以て組織する。
- (会員の資格)
第7条 本会会員となる資格は次の各項の定めるところによる。
1. 会 員 (1) 名古屋専門学校応用物理建築分科卒業生。
(2) 名城大学理工学部建設工学科建築分科卒業生。
(3) 名城大学理工学部建築学科卒業生。
(4) 名城大学大学院工学研究科建築学専攻修了生。
(5) 名城大学大学院理工学研究科建築学専攻修了生。
(6) 前(1)～(5)項に籍を置く者で役員会で承認した者は会員に準ずる。
2. 名誉会員 本会に功勞のあるもので総会の承認するもの。
3. 学生会員 前1項の(3)、(4)在籍者。
4. 特別会員 名城大学理工学部建築学科の教職員。
5. 賛助会員 個人または団体で本会の事業を賛助するもので評議員会の承認を得たもの。
- (会費)
第8条 1. 年会費は3,000円とする。納入した会費は返却しない。
2. 60才以上の会員が永年会費30,000円を納入した場合は、以降の年会費を免除する。
3. 学生会員は、卒業後5年迄の会費10,000円を納入する。

第3章 総 会

- (総会に召集)
第9条 1. 通常総会は毎年1回事業年度終了後3ヵ月以内に会長が召集する。
2. 臨時総会は評議員会または役員会で必要と認めたとき会長が召集する。
- (総会の通知)
第10条 総会の召集はその2週間前までに日時・場所を示した文書、又は校友会会報をもって会員及び名誉会員に通知しなければならない。
- (総会の議決事項)
第11条 総会では次の事項を議決する。
1. 事業報告、収支予算ならびに財産目録の承認に関する事項。
2. 事業計画及び予算に関する事項。
3. 重要な財産の取得、処分に関する事項。
4. 評議員会、役員会で必要と認めた事項。
5. 評議員会における選出役員を承認する事項。
- (総会の議決)
第12条 1. 総会の議事は出席会員の過半数の同意で成立する。
2. 議事の議決同意が可否同数の時は議長が決める。
3. 総会の議長は出席会員の中から選任する。
- (議事録)
第13条 1. 議長は総会の議事について議事録を作らなければならない。
2. 議長は議事録署名人を出席会員の中から選任する。

第4章 役員及び会議

- (役員)
第14条 1. 本会には次の役員を置く。
(1) 名誉会長 1名 (7) 常任幹事 若干名
(2) 会 長 1名 (8) 委員長 専門委員会
(3) 副会長 6名以内 (9) 会 計 1名(補佐1名)
(4) 監 事 2名
(5) 支 部 長 各支部1名
(6) 学内幹事 若干名
2. 本会には相談役及び参与を置くことができる。
相談役は役員会に諮って会長が推薦する。
参与は本会の役員であった者の中から会長が推薦する。
相談役、参与は本会の諮問に応ずる。
- (役員の選出)
第15条 1. 会長、副会長、会計、監事は評議員会の推薦により選出する。
2. 名誉会長は建築学科長がこれにあたる。
3. 支部長は支部を構成する正会員の中から選出する。
4. 学内幹事は学内の会員及び特別会員の中から互選により選出する。
5. 常任幹事は会長の推薦により会員の中から選出する。
- (役員の職務)
第16条 1. 会長は本会を代表し会務を総理し評議員会役員会等の議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し会長に事故ある時はその職務を代理する。
3. 支部長は支部を代表し支部の会務を掌理する。
4. 学内幹事は学科内の意見を集約し会との疎通を図る。
5. 常任幹事は会長の補佐として各事業を援助する。
6. 委員長は各専門委員会を代表し、委員会の会務を掌理する。
7. 会計は本会の会計事務を行う。

8. 監事は年1回以上本会の事業及び会計監査を行いその結果を総会に報告する。
- (役員の任期)
第17条 1. 役員の任期は2年とする。
2. 補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。
3. 役員は再任を妨げない。
4. 役員は任期中に退任しようとするときは評議員会の承認を必要とする。

- (役員会)
第18条 1. 役員会は本会の運営を円滑にするための執行機関である。
2. 役員会は名誉会長、会長、副会長、監事、各支部長、常任幹事、学内幹事、各委員長、会計、会計補佐によって構成する。尚 相談役、参与については会長が必要に応じ出席を求める。
3. 役員会は役員の過半数の出席をもって会議が成立し、出席者の過半数の同意がなければ議決することができない。尚出席出来ない時は委任状を議長宛に提出し、議決権を行使することが出来る。
- (専門委員会)
第19条 1. 専門委員会は第4条の目的と第5条の事業を円滑に達成するために評議員及び会員の中から若干名を選出し、これを構成する。
2. 専門委員会は次による。
(1) 総務委員会 (5) 組織委員会
(2) 財政委員会 (6) その他必要となる委員会
(3) 事業・経済交流委員会
(4) 会報・名簿・IT委員会

第5章 評議員及び評議員会

- (評議員)
第20条 1. 本会は会員の卒業年度の代表として評議員を選出する。
2. 評議員は評議員の推薦による。又は各期会員の中から選出する。
- (評議員の任期)
第21条 1. 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. 評議員が欠けた場合の補充評議員の任期は前任者の残任期間とする。
- (評議員会)
第22条 1. 評議員会は役員及び各期評議員で構成し会長が必要と認めた場合に会長がこれを招集する。
- (評議員会の開催)
第23条 1. 評議員会は定例評議員会と臨時評議員会とする。
2. 定例評議員会は、毎年総会の1箇月前とする。
3. 臨時評議員会は役員会で必要と認めたとき、または評議員の3分の1以上の要請があったときに開催する。
4. 評議員会の招集は議案を付して10日前までに通知しなければならない。
- (評議員の議決)
第24条 1. 評議員会における議事の議決は総会に準ずる。
- (評議員の審議事項)
第25条 1. 評議員会の審議事項は、次の各号に定めるところによる。
2. 総会の付議事項に関すること。
3. 役員選出に関すること。
4. その他必要と認める重要事項。
- (基本資産)
第26条 基本資産は会費、寄付金及び助成金でこれを構成する。
- (経費の支弁)
第27条 本会の経費は基本資産ならびに事業から生ずる収入でこれを支弁する。(事業年度)
第28条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。(特別会計)
第29条 本会に特別会計を設けることができる。

第6章 資産及び会計

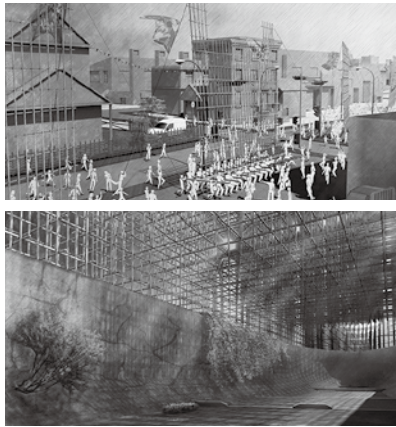
第7章 雑 則

- (会則変更)
第30条 本会則は総会の議決によって変更することができる。
第31条 本会は会務運営及び第5条の事業遂行のために必要な委員会及び部会を設けることができる。

附 則

- (1) 本会則は、昭和38年9月22日より施行する。
(2) 昭和45年 9月14日会則一部改正及び訂正施行する。
(3) 昭和51年 8月 7日会則一部改正施行する。
(4) 昭和57年 9月12日会則一部改正及び訂正施行する。
(5) 昭和60年 9月 8日会則一部改正及び訂正施行する。
(6) 平成元年 9月17日会則一部改正及び訂正施行する。
(7) 平成 5年 9月18日会則一部改正及び訂正施行する。
(8) 平成 6年 9月25日会則一部改正及び訂正施行する。
(9) 平成 7年 9月24日会則一部改正施行する。
(10) 平成 8年 9月21日会則一部改正及び訂正施行する。
(11) 平成10年 9月20日会則一部改正及び訂正施行する。
(12) 平成12年10月 1日会則一部改正及び訂正施行する。
(13) 平成13年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。
(14) 平成18年 9月10日会則一部改正及び訂正施行する。
(15) 平成19年 9月30日会則一部訂正及び訂正施行する。
(16) 平成20年 9月28日会則一部訂正及び訂正施行する。
(17) 平成23年 6月19日会則一部訂正及び訂正施行する。

表紙・裏表紙解説



表紙:近代建築掲載作品(山本 将太)

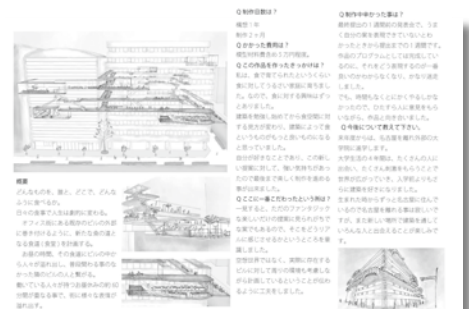
今年の前期に東日本大震災の被災地におけるまちづくり活動に関わらせて頂いた。まちづくりに関わる中でこの街から震災の記憶を残すものがすべて失われてしまう事に危機感を感じ、これらをどうすれば残していけるかを卒業設計のテーマとした。

私の提案は、1000年に1度と言われる東日本大震災と同規模の津波に対して、今回の震災の記憶を祝祭として1000年先まで伝えていくもので、私が設計したのは震災の記憶を色濃く残した共徳丸のネガを形づくることと、それをつくるための人々の行為としての祝祭である。共徳丸の津波の脅威を伝える要素として、「スケール」、「重量」、「距離」を抽出し、これらを祝祭の中でそれぞれを「地形」「山車」「道」として再現した。

海で山車を組み立て、それら複数の山車を大勢の人々が共徳丸の地形の位置に運ぶ。この行為により共徳丸の重量と流れた距離を体感する。運ばれた山車は順に地形の上に組み上げ、すべての山車が運び終わると組み立てられた山車が共徳丸の上部の姿をかたどっている。また下部は追悼の空間として被災当時の地面の高さと道路や建物の基礎がそのまま残されている。千年という時間の中で、祝祭の意味は後世へと語り継がれ、この街とここに住む人々に震災の記憶は残されてゆく。



裏表紙:日本建築学会巡回作品(日野 達真)



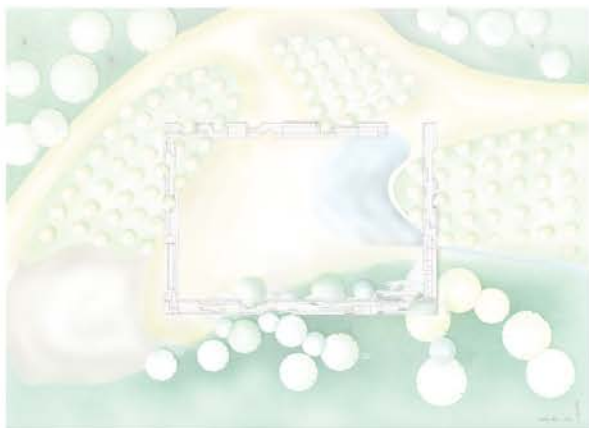
裏表紙:愛知建築士会提出作品(加藤 福子)

※題字 故 中田 武教授

平成25年度役員

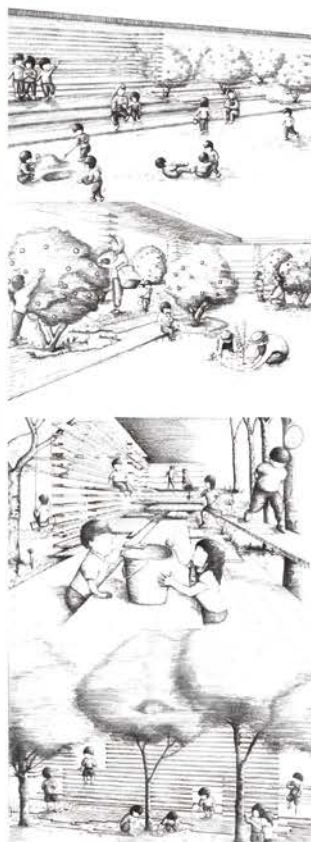
名誉会長 高井 宏之 (建築学科長)	東三河支部長 山本 利州 (昭和37年卒)	組織委員長 鈴木 善徳 (昭和43年卒)
会長 小木曾 森司 (昭和48年卒)	尾張東支部長 駒 秀夫 (昭和45年卒)	総務副委員長 大橋 裕一 (昭和56年卒)
副会長 石川 豊 (昭和47年卒)	常任幹事 富板 邦夫 (昭和38年卒)	財政副委員長 近藤 清之 (昭和52年卒)
副会長 山田 健三 (昭和46年卒)	常任幹事 河合 秀一 (昭和48年卒)	事業・経済交流委員長 安藤 勉 (昭和54年卒)
副会長 荒川 建昭 (昭和41年卒)	常任幹事 下地 康夫 (昭和47年卒)	会報・名簿・IT副委員長 児玉 道子 (平成22年院卒)
副会長 安井 真 (昭和48年卒)	常任幹事 岡野 廣海 (昭和50年卒)	愛城会幹事 林 靖郎 (昭和56年卒)
副会長 安藤 洋 (昭和41年卒)	学内幹事 谷田 真 (平成7年卒)	城友会会長 丸澤 良彦 (昭和52年卒)
監事 佐藤 正義 (昭和35年卒)	会計 大河内 岸子 (昭和51年卒)	相談役 加藤 哲也 (昭和38年卒)
監事 亀之内 親雄 (昭和42年卒)	会計補佐 佐々木 和穂 (昭和56年卒)	相談役 廣瀬 敏郎 (昭和44年卒)
岐阜県支部長 水谷 武 (昭和34年卒)	総務委員長 山中 弘 (昭和53年卒)	相談役 岩崎 征一 (昭和41年卒)
名古屋副支部長 内田 満 (昭和40年卒)	財政委員長 磯野 信秀 (昭和47年卒)	参与 秦 和久 (昭和30年卒)
尾張南副支部長 松本 実 (平成4年卒)	事業・経済交流委員長 荒木 衛 (昭和58年卒)	参与 坂崎 日支夫 (昭和35年卒)
西三河支部長 深谷 光秀 (昭和53年卒)	会報・名簿・IT委員長 安井 真 (昭和48年卒)	参与 鈴木 寛 (昭和34年卒)

園 日野 達真



概要

私の卒業制作の舞台としたのは愛知県松山市中島という人口4000人の豊かな自然に囲まれた島です。年々減少し現在では50人となった子どもたち。人手を失い廃業の相次ぐみかん畑。荒廃しつつも人の手が加えられ始めている自然。島の約8割を占めるみかん畑。こんな問題を抱えながらも魅力の残る島で、子どもたちや農家によって島の魅力的な風景が受け継がれていくきっかけになる建築を考えました。計画地は雨期に自然と発生するため池や人が訪れやすいように綺麗に舗装された道や手入れがされず荒廃しがけている雑木林やみかん畑など多様な環境に囲まれています。ここに置かれた建築は農家の人々により農作業を支える足場や、休まるベンチ、また道具やみかんを貯蔵する倉庫や貯蔵庫のように使われます。また、子どもたちが学校帰りに保育の一環でこの場所に訪れ、子どもたちの秘密基地や自分たちで新たに育てていくみかん畑のような遊んだり学んだりする場になります。この場所は島の子どもたちや農家の人々により自然と育まれ、受け継がれていく島の園になります。



Q 制作日数は？

構想6ヶ月 製作2ヶ月弱

Q かかった費用は？

模型代、印刷用の紙等で5~6万

Q この作品を作ったきっかけは？

この中島は祖母の住む島で、自分も幼い頃この島で遊び育ったので、最初からこの島を卒業制作の舞台にしようと考えていました。また、卒業制作のフィールド調査で再びこの中島を訪れたとき、いつも見ていた島の景色が全く違うものに見えてきて、自分の育った島を改めて伝えたいと思うようになりました。

Q ここに一番こだわったという所は？

絵や言葉の表現です。自然や建築をとにかく優しく表現すること、言葉よりも絵で表現したかったので一枚一枚に出てくる子どもたちの動きすべてにこだわって描きました。言葉も絵本のように子どもでも理解できるように表現にしました。

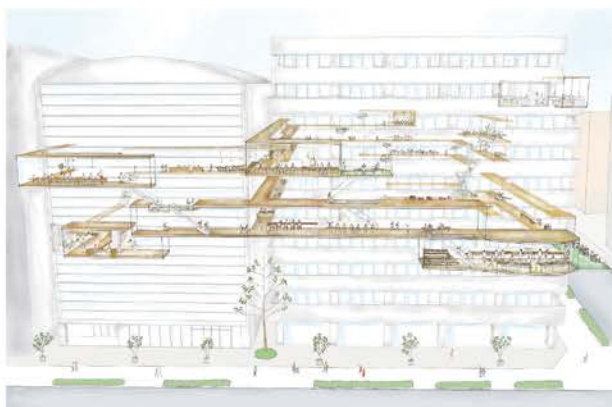
Q 制作中つらかったことは？

今年度から研究棟が新しくなり、制度が変わったため、制作室での過ごし方にすぐ慣れることができませんでした。

Q 今後について教えてください。

大学院に進んで、研究室のプロジェクトをはじめ、個人でも様々な企画やコンペなどに取り組んでいきたいです。

60分の積層 加藤 福子



概要

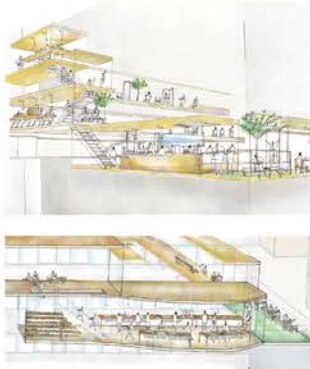
どんなものを、誰と、どこで、どんなふうに食べるか。

日々の食事で人生は劇的に変わる。

オフィス街にある既存のビルの外部に巻き付けるように、新たな食の道となる食道(食堂)を計画する。

お昼の時間、その食道にビルの中から人々が溢れ出し、普段関わる事なかった隣のビルの人と繋がる。

働いている人々が持つお昼休みの約60分間が重なる事で、街に様々な表情が溢れ出す。



Q 制作日数は？

構想1年

制作2ヶ月

Q かかった費用は？

模型材料費含め5万円程度。

Q この作品を作ったきっかけは？

私は、食で育てられたというくらい食に対してうるさい家庭に育ちました。なので、食に対する興味はずっとありました。

建築を勉強し始めてから食空間に対する見方が変わり、建築によって食というものがもっと良いものになると思っていました。

自分が好きなことであり、この新しい提案に対して、強い気持ちがあったので最後まで楽しく制作を進める事が出来ました。

Q ここに一番こだわったという所は？

一見すると、ただのファンタジックな楽しいだけの提案に見られがちですが、そこをどうリアルに感じさせるかというところを意識しました。

空想世界ではなく、実際に存在するビルに対して周りの環境も考慮しながら計画しているということが伝わるように工夫をしました。

Q 制作中辛かった事は？

最終提出の1週間前の発表会で、うまく自分の案を表現できていないとわかったときから提出までの1週間です。作品のプログラムとしては完成しているのに、それをどう表現するのが一番良いのかわからなくなり、かなり迷いました。

でも、時間もなくなるとにかくやるしかなかったで、ひたすら人に意見をもらいながら、作品と向き合いました。

Q 今後について教えてください。

来年度からは、名古屋を離れ外部の大学院に進学します。

大学生生活の4年間は、たくさんの人に出会い、たくさん刺激をもらうことで世界が広がっていき、入学前よりもさらに建築を好きになりました。

生まれた時からずっと名古屋に住んでいるので名古屋を離れる事は寂しいですが、また新しい場所で建築を通していろんな人と出会えることが楽しみです。

